

# 特定外来生物同定マニュアル

## ■ 魚類

---

- チャネルキャットフィッシュ
- ノーザンパイク
- マスキーパイク
- カダヤシ
- ブルーギル
- コクチバス
- オオクチバス
- ストライプトバス
- ホワイトバス
- ヨーロピアンパーチ
- パイクパーチ
- ケツギヨ
- コウライケツギヨ



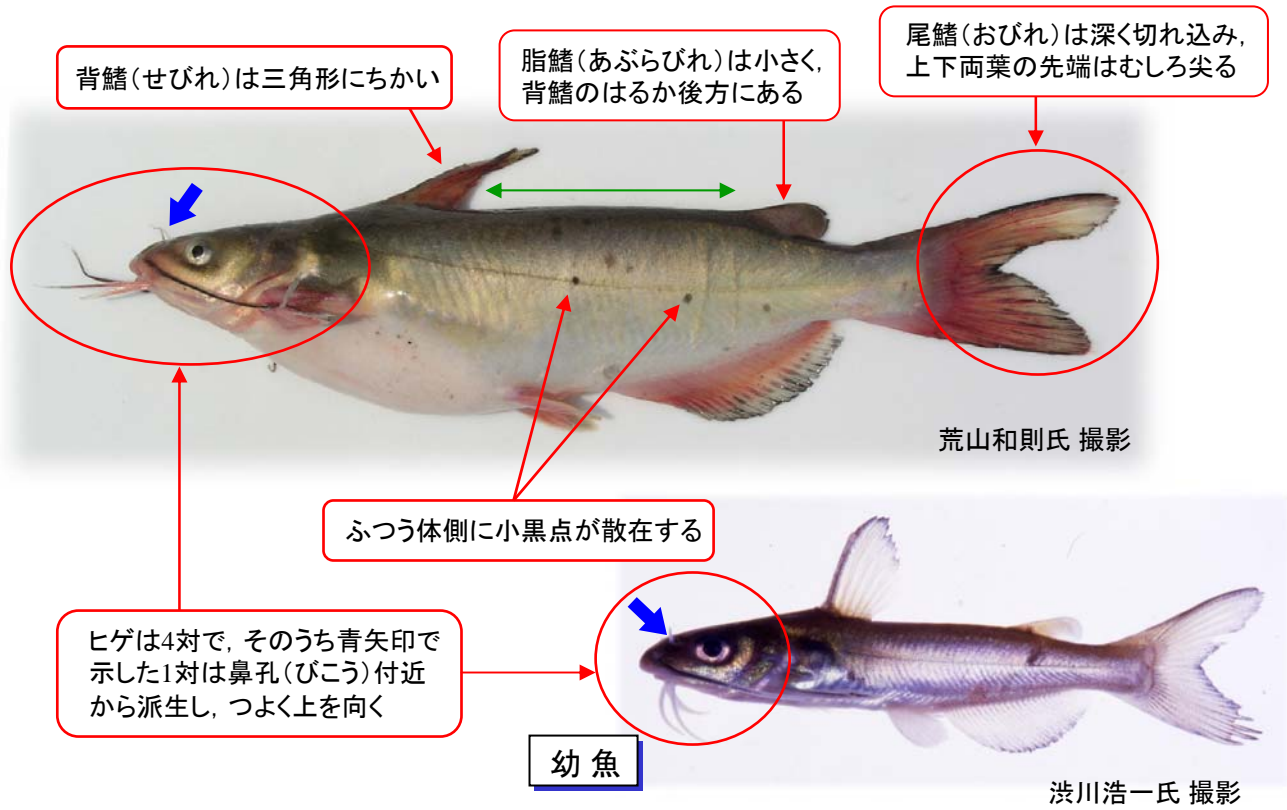
# チャネルキャットフィッシュ

分類: ナマズ目 アメリカナマズ科

**学名:** *Ictalurus punctatus* (Rafinesque, 1818)  
**英名:** Channel catfish  
**和名:** チャネルキャットフィッシュ  
**別名・流通名:** アメリカナマズ, チャネルキャット, チャネルキャットフィッシュ(あるいはチャネルキャット), カワフグ, シミズダイ  
**原産地と分布:** 原産地は北アメリカ(メキシコ北部～アメリカ合衆国およびカナダ南部)。現在では、日本を含む世界各地に移植されている。

**未判定外来生物:** アメリカナマズ科の2属(チャネルキャットフィッシュを除く *Ictalurus* および *Ameiurus*)  
**種類名証明書添付生物:** なし。

**形態的特徴:** 背鰭(せびれ)は三角形にちかい形をしており、そのはるか後方に小さな脂鰭(あぶらびれ)がある。尾鰭(おびれ)は深く切れ込み、上下両葉の先端はむしろ尖る。頭部に4対のヒゲがある;そのうちの1対は鼻孔(びこう)付近から派生し、強く上を向く。体の背側は暗灰色で、腹方に向かうにつれ黄みあるいは青みがかった淡灰色となる。腹部は白色。ふつう体側に小黑点がまばらに散在する。大型個体ではふつう体色が黒ずみ、斑点も不明瞭となる。最大で全長1.3 m程度まで成長する。



**特記事項:** 利根川水系に定着しているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、捕獲時には適正に取り扱なくてはならない。霞ヶ浦などの生息地においては、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、これまで観賞魚としても一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。

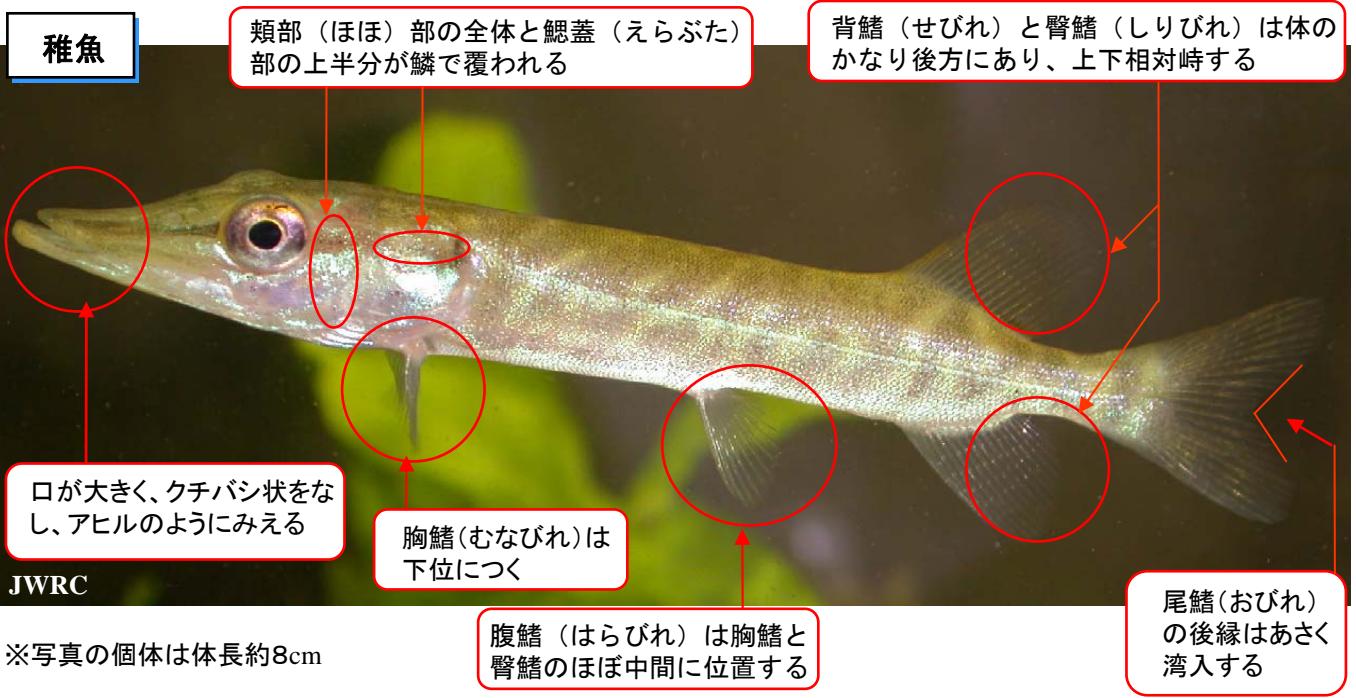
# ノーザンパイク

分類: カワカマス目カワカマス科カワカマス属(パイク目パイク科パイク属)

学名: *Esox lucius* Linnaeus, 1758  
英名: Northern pike  
和名: ノーザンパイク  
別名・流通名: キタカワカマス  
原産地と分布: 原産地は北アメリカ、ヨーロッパ北西部、アジア北部

**未判定外来生物:**カワカマス属全種(ノーザンパイク、マスキーパイクを除く)  
**種類名証明書添付生物:**カワカマス属全種  
**規制対象外の類似生物:**一見すると、観賞魚として利用されているガー目のアリゲーターガー *Atractosteus spatula*、スポテッドガー *Lepisosteus oculatus* など、鱭のつきかたが似ているが、これらの種はワニのような顔つきをしており、鱭が大きく、尾鱭の後縁が丸いので、容易に識別できる。また、海産のカマス科魚類と体型が類似しているが、胸鱭がより上位にあり、かつ、腹鱭がより前方にあることによって、容易に識別することができる。

**形態的特徴:** 体は長い。頬部(ほほ)部の全体と鰓蓋(えらぶた)部の上半分が鱭で覆われる。口が大きく、クチバシ状をなし、アヒルのようにみえる。下顎は上顎よりも前につきだす。下顎の感覚孔の数は片側に10~11。鰓条骨(さいじょうこつ)の数は片側に13~16。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鱭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鱭(せびれ)と臀鱭(しりびれ)は体のかなり後方にあり、上下相對峙する。背鱭は15~19軟条、臀鱭は12~15軟条。胸鱭(むなびれ)は下位につく。腹鱭(はらびれ)は胸鱭と尻鱭のほぼ中間に位置する。尾鱭の後縁はあさく湾入する。鱭は細かく、側線鱭数は119~129。成魚の体色は通常、緑褐色で、黄淡色の小斑がある。稚魚では、不規則な多数の暗色斑紋があり、横帯状となる。最大で全長150cmとされるが、ふつうは50~70cm程度まで。



**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。欧米では釣り魚として人気がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。

## 特定外来生物同定マニュアル

# マスキーパイク

分類: カワカマス目カワカマス科カワカマス属(パイク目パイク科パイク属)

学名: *Esox masquinongy* Mitchell, 1824  
英名: Muskellunge, Muskinonge, Musky  
和名: マスキーパイク  
別名・流通名: マスケランジ、マスキノンジ、マスキー  
原産地と分布: 原産地は北アメリカ東部の五大湖周辺

**未判定外来生物:** カワカマス属全種(ノーザンパイク、マスキーパイクを除く)  
**種類名証明書添付生物:** カワカマス属全種  
**規制対象外の類似生物:** 一見すると、観賞魚として利用されているガー目のアリゲーターガー *Atractosteus spatula*、スポテッドガー *Lepisosteus oculatus* などと、鱭のつきかたが似ているが、これらの種はワニのような顔つきをしており、鱭が大きく、尾鱭の後縁が丸いので、容易に識別できる。また、海産のカワカマス科魚類と体型が類似しているが、胸鱭がより上位にあり、かつ、腹鱭がより前方にあることによって、容易に識別することができる。

**形態的特徴:** 体は長い。頬部(ほほ)部と鰓蓋(えらぶた)部は上半分が鱭で覆われる。口は大きく、アヒルのクチバシ状をなす。下顎は上顎よりも前につきだす。下顎の感覚孔の数は片側に6~9。鰓条骨(さいじょうこつ)の数は片側に17~19。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鱭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鱭(せびれ)と臀鱭(しりびれ)は体のかなり後方にあり、上下相対峙する。背鱭は15~19軟条、臀鱭は14~16軟条。胸鱭(むなびれ)は下位につく。腹鱭(はらびれ)は胸鱭と尻鱭のほぼ中間に位置する。尾鱭の後縁はあさく湾入する。鱭は細かく、側線鱭数は130~157。成魚の体色は通常、緑褐色で、不規則な多数の黒半斑紋があり、横帯状となる。ただし、斑紋は変化に富んでいる。最大で全長180cmとされるが、ふつうは80~120cm程度まで

写真なし

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。欧米では釣り魚として人気種がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。

# カダヤシ

分類：カダヤシ目カダヤシ科カダヤシ属

学名：*Gambusia affinis* Baird and Girard, 1853

英名：Mosquitofish

和名：カダヤシ

別名・流通名：タップミノー

原産地と分布：原産地は北アメリカ（メキシコ北部～アメリカ合衆国ミシシッピ川流域）。現在では、移植により、日本を含む世界各地に分布する。

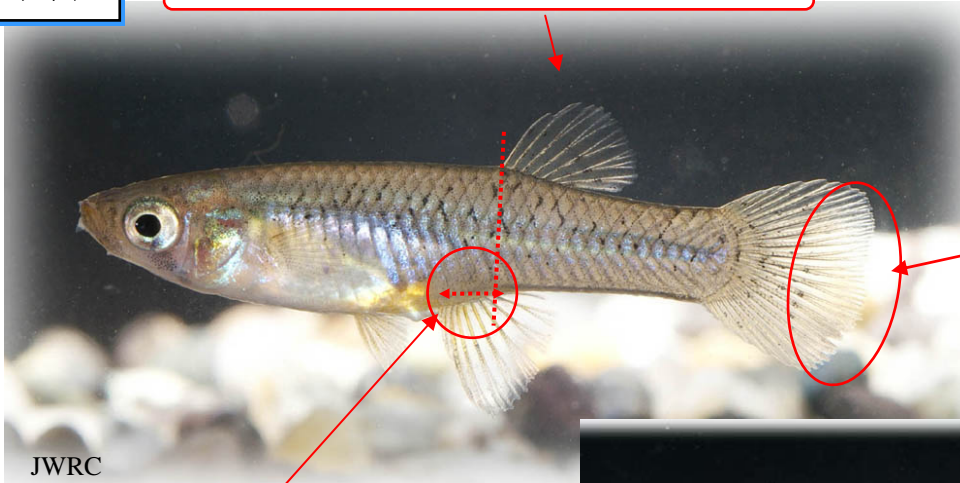
未判定外来生物：*Gambusia holbrooki*

種類名証明書添付生物：カダヤシと*Gambusia holbrooki*

**形態的特徴**：体高が低く頭が尖り、メダカに似た体型をしている。口は小さい。背鰭（せびれ）は体の真ん中よりも後方にある。背鰭、臀鰭（しりびれ）ともに基底は短い。メスでは背鰭、臀鰭ともに後端が丸く同じような形をしているが、成熟したオスでは臀鰭は細長く変形して交尾器になる。交尾器は非常に長く、腹鰭（はらびれ）の長さの数倍になる。メスの背鰭基部は臀鰭基底の真ん中よりも後方にある。尾鰭（おびれ）の後縁は丸い。鱗（うろこ）は大きく、側線鱗数は28～32。背鰭前方の鱗数は16～17。体はやや青みがかった灰色～灰褐色。体側上部に小さな黒い点がある事もある。全長はオスで3cm、メスで5cm程度までになる。

メス

背鰭（せびれ）は1つで体の真ん中より後ろ寄りにある

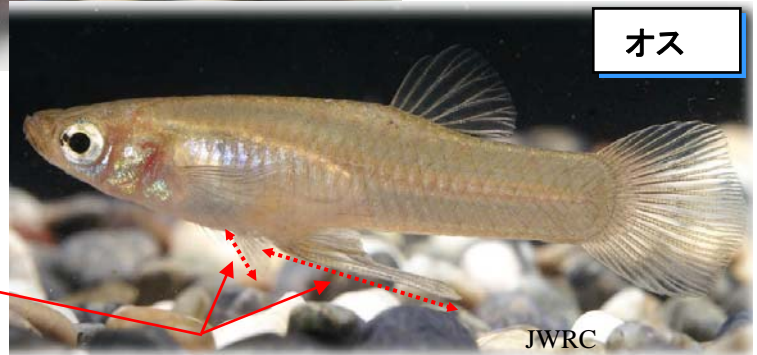


尾鰭（おびれ）の後縁は丸い

背鰭（せびれ）基部は臀鰭（しりびれ）基底の真ん中より後ろ

オスの臀鰭（しりびれ）は変形して交尾器になる  
交尾器は腹鰭（はらびれ）より著しく長い

オス



JWRC

**特記事項**：カダヤシは各地の水田や用水路、池沼などに普通に生息しているので、水生生物調査や観察会などで採集されることがある。しかしながら、本種の飼養等は学術研究を除き原則的に禁止されており、生きたままの取り扱いには外来生物法に従って適切に行わなくてはならない。本種の防除については、ニュージーランドで様々な手法により実施されてきたが、日本では効果的な手法が確立されておらず、これまで対策が講じられることはなかった。今後は、メダカ等の在来生物の生息地保全のために、外来生物法に基づき、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、観賞魚として多数流通しているメダカ、グッピーなどを含むメダカ科やカダヤシ科には、カダヤシと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の位置などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。

# 特定外来生物同定マニュアル

## ブルーギル

分類: スズキ目サンフィッシュ科

学名: *Lepomis macrochirus* Rafinesque, 1819

英名: Bluegill

和名: ブルーギル

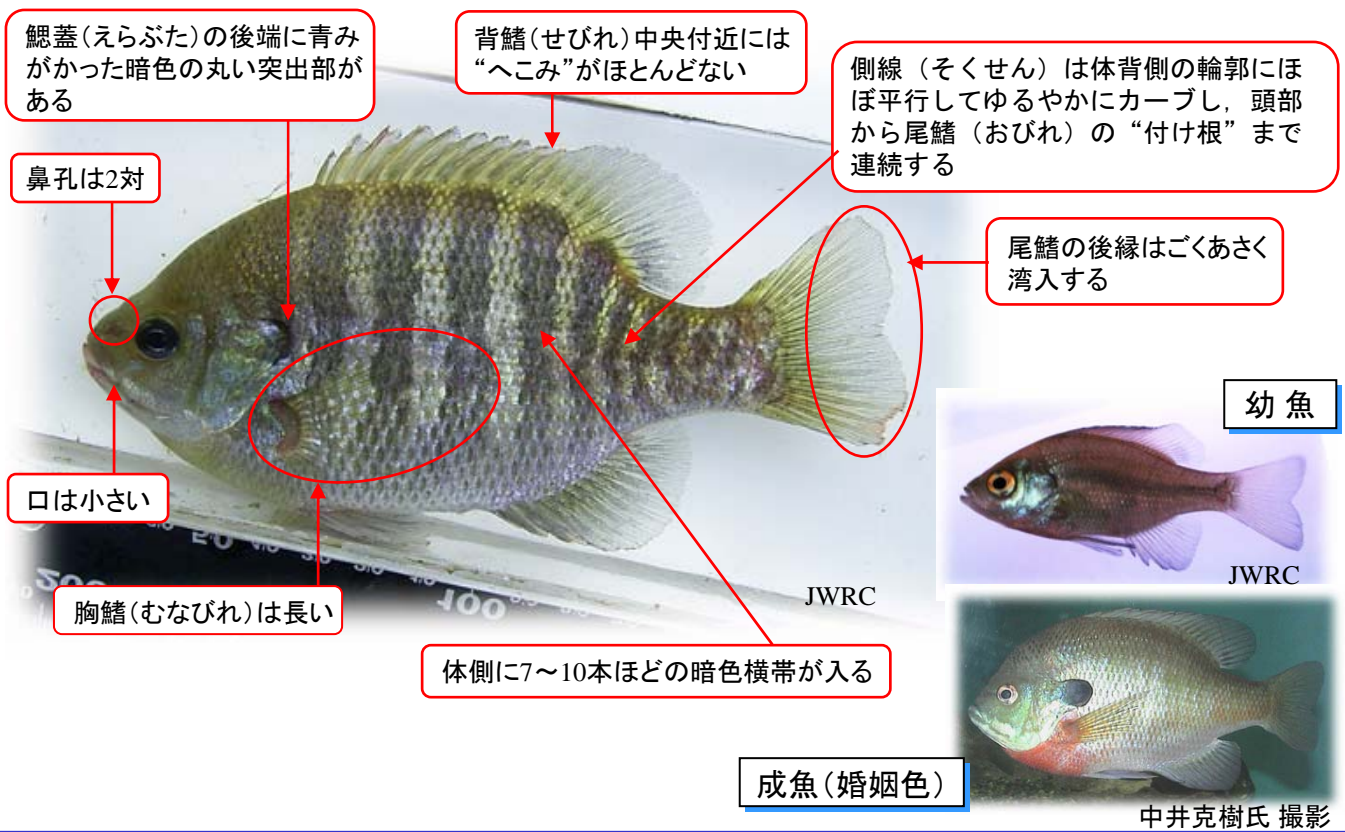
別名・流通名: ギル, ブルーギルサンフィッシュ

原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)

種類名証明書添付生物: ナンダス科の1属(*Nandus*), プリストレピス科の1属(*Pristolepis*), ポリケントルス科の2属(*Afronanuds*, *Polycentropsis*)

**形態的特徴:** 体高が高い。口は小さく、顎の後端は眼の前縁下付近に達する程度。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近には“へこみ”がほとんどない。胸鰭(むなびれ)は長い。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は40～44。体は淡灰褐色で、体側に7～10本ほどの暗色横帯がはいる。鰓蓋(えらぶた)の後端に青みがかった暗色の丸い突出部がある。最大で全長41cmのものも報告されているが、ふつうは25cm程度まで。



**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、遊漁の対象にされているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、捕獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

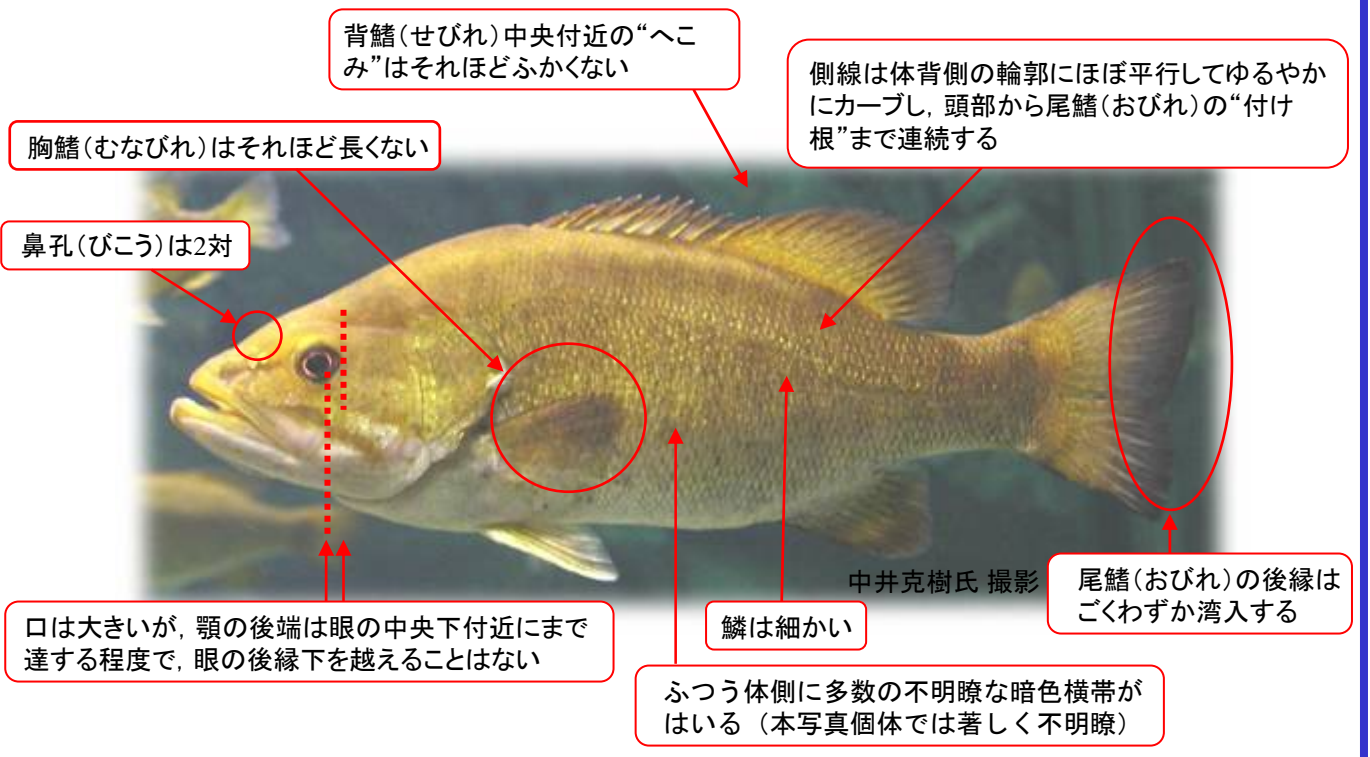
# コクチバス

分類: スズキ目サンフィッシュ科

学名: *Micropterus dolomieu* Lacepède, 1802  
英名: Smallmouth bass  
和名: コクチバス  
別名・流通名: スモールマウスバス, バス, ブラックバス, クロマス, コクチクロマス  
原産地と分布: 原産地は北アメリカ(アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属 (*Morone*, *Dicentrarchus*), ケツギョ科の2属 (*Siniperca*, *Hypopterus*)  
種類名証明書添付生物: アカメ科の1属 (*Lates*), ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**形態的特徴:** 体高が低い。口は大きく、顎の後端は眼の中央下付近にまで達するが、眼の後縁下を超えることはない。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近の“へこみ”はそれほど深くない。胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は68~81。体は茶褐色で、背部はやや暗色がかかり、腹部は白色にちかい。ふつう体側に多数の不明瞭な暗色横帯がはいる。最大で全長69cmのものも報告されているが、ふつうは50cm程度まで。



**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

# オオクチバス

分類: スズキ目 サンフィッシュ科

学名: *Morone saxatilis* (Walbaum, 1792)

英名: Largemouth bass

和名: オオクチバス

別名・流通名: バス, ブラックバス, クロマス, オオクチクロマス, フロリダバスあるいはフロリダラージマウスバス(フロリダ産亜種), ノーザンラージマウスバス(フロリダ半島以外の地域原産の基亜種)

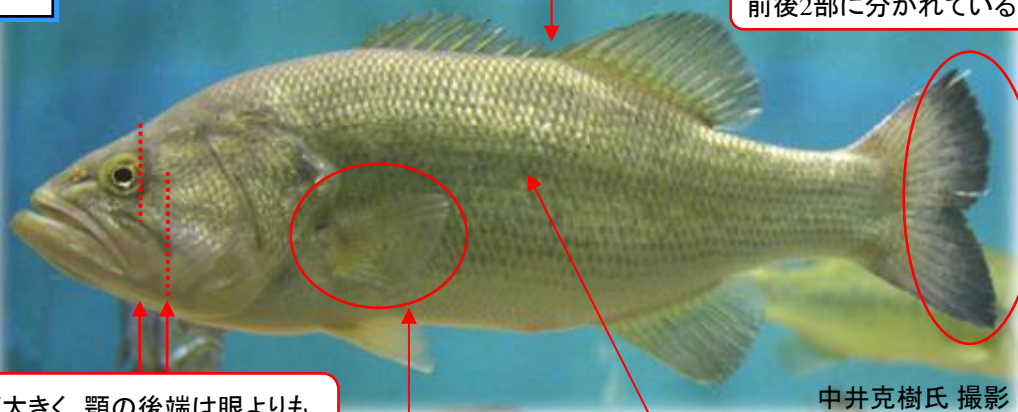
原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に分布する。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く), パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*, *Sander* (= *Stizostedion*), *Zingel*], ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*), モロネ科の2属 (*Morone*, *Dicentrachus*), ケツギョ科の1属 (*Siniperca*)

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**形態的特徴:** 体高が低い。口が大きく、顎の後端は眼の後縁下よりも後方にまで達する(幼魚をのぞく)。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり、前後2部に分かれているように見える。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は58～75。体は淡い灰褐色～銀白色で、背部は暗色がかり、腹部は白色にちかい。体側に黒斑列があり(幼若魚で鮮明)、なかでもとくに鼻先～眼から体側中央をとおり尾鰭(おびれ)基部にまで達する1列が最も明瞭で縦帯状となる。最大で全長97cmとされるが、ふつうは50cm程度まで。

## 成魚



口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

胸鰭(むなびれ)はそれほど長くない

背鰭(せびれ)の中央付近にふかい欠刻があり前後2部に分かれているように見える

尾鰭(おびれ)の後縁はごくあさく湾入する

中井克樹氏 撮影

## 幼魚



体側に黒斑列がある(幼若魚でとくに鮮明)

※側線や鼻孔の状態についてはコクチバスの図を参照のこと

**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、それらの水域や管理釣り場などで釣り魚として利用されているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、釣獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。

# ストライプトバス

分類: スズキ目スズキ亜目モロネ科

学名: *Morone saxatilis* (Walbaum, 1792)

英名: Striped bass; Striped sea-bass

和名: ストライプトバス

別名・流通名: シマスズキ、ストライパー

原産地と分布: 原産地は北アメリカだが、現在では移植により、日本、イラク、エクアドル、ロシア、南アフリカなどで分布が確認されている。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種（オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く）、パーチ科の4属〔*Gymnocephalus*、*Perca*（ヨーロピアンパーチを除く）、*Sander*（パイクパーチを除く）、*Zingel*〕、ペルクティス科の4属（*Percichthys*、*Gadopsis*、*Maccullochella*、*Macquaria*）、モロネ科の2属〔*Morone*（ストライプトバス・ホワイトバスを除く）、*Dicentrachus*〕、ケツギョ科の1属〔*Siniperca*（ケツギョ・コウライケツギョを除く）〕

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属（*Lates*、*Hypopterus*）、ケントロポムス科の1属（*Centropomus*）

**形態的特徴:** 体高はやや高い。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央の直下に達する（幼魚をのぞく）。下顎は上顎よりもわずかに前に出る。鼻孔は2対。側線（そくせん）は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭（おびれ）の“付け根”まで連続する。背鰭（せびれ）は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は53~68。体は銀白色で、体側に7~8本の黒色縦帯をもつ。最大で全長200cmとされるが、ふつうは50cm程度まで。

## 成魚

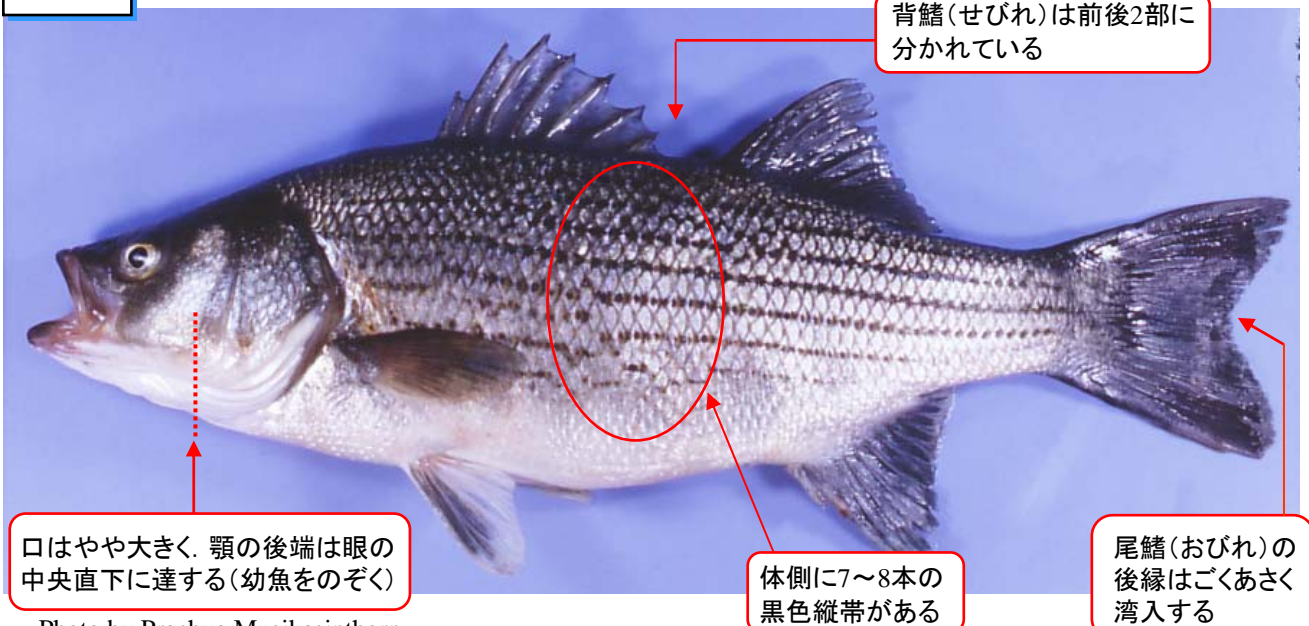


Photo by Prachya Musikasinthorn

※この写真はストライプトバスとホワイトバスの交雑種

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。原産地では釣り魚として人気があり、ストライパーと呼ばれる。これまで日本国内の一部の管理釣り場で利用されていたが、今後は無許可での飼養や保管、運搬は法令違反の対象になる。国内の自然水域では過去に数回の捕獲例があるが、未然に定着を防ぐためには、野外での捕獲個体を再放流しないことが望まれる。なお、本種は茨城県では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。

# ホワイトバス

分類: スズキ目スズキ亜目モロネ科

学名: *Morone chrysops* (Rafinesque, 1820)

英名: White bass, White perch

和名: ホワイトバス

別名・流通名: ホワイトパーチ、ストライパー

原産地と分布: 原産地は北アメリカ。現在では移植により、日本、中国、プエルトルコ、イスラエルなどで分布が確認されているが、定着の有無は不明。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca* (ヨーロッパアンパーチを除く)、*Sander* (パイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone* (ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca* (ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** ホワイトバスと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワスズメ科魚類 (“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高はやや高い。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央直下に達する(幼魚をのぞく)。下顎は上顎よりもわずかに前に出る。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は52~60。体は淡い灰褐色~銀白色で、体側に5~7本の暗色縦帯をもつ。最大で全長45cmに達する。

写真なし

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。原産地では同属のストライプトバス等とともに釣り魚として人気があり、ストライパーと呼ばれる。日本国内の自然水域での捕獲事例はない。なお、本種は茨城県では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。

## 特定外来生物同定マニュアル

# ヨーロッパパーチ

分類：スズキ目スズキ亜目パーチ科

学名： *Perca fluviatilis* Linnaeus, 1758

英名： European perch

和名： ヨーロッパパーチ

別名・流通名： Perch(パーチ)、Barsch(バルシュ)、Perche fluviatile(ペルシュ・フルビアテュー)、Okun(オクン)

原産地と分布： 原産地はヨーロッパ～シベリア。現在では移植により、南アフリカ、モロッコ、キプロス、ニュージーランドなどで分布が確認されている。

**未判定外来生物：** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属[*Gymnocephalus*、*Perca*(ヨーロッパパーチを除く)、*Sander*(パイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属(*Percichthys*、*Gadopsis*、*Maccullochella*、*Macquaria*)、モロネ科の2属[*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属[*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物：** アカメ科の2属(*Lates*、*Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属(*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物：** ヨーロッパパーチと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワスズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴：** 体高はたかく、側扁する。口はやや大きく、顎の後端は眼の中央直下付近に達する。下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かい。緑黄色の体側には、5～9本の黒い横縞がある。腹鰭、臀鰭、尾鰭の下端は赤色となる。最大で全長51cmとされるが、ふつうは20～35cm程度まで。

### 幼魚



口が大きく、顎の後端は眼の中央直下付近に達する

背鰭(せびれ)は前後2部に分かれている

腹鰭(はらびれ)は赤色

体側に5～9本の黒い横縞がある

尾鰭(おびれ)の後縁はあさく湾入する

東隆司氏撮影

**特記事項：** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。ヨーロッパ諸国では釣り魚として人気がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシクリッド科やアカメ科、ナンダス科などには、ヨーロッパパーチと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。

# パイクパーチ

分類: スズキ目スズキ亜目パーチ科

学名: *Sander\* lucioperca* (Linnaeus, 1758)

英名: Pikeperch

和名: パイクパーチ

別名・流通名: Zander(ザンダー)、Sandre(サンドル)、Sudak(スダーク)

原産地と分布: 原産地はヨーロッパ東部、中部、アジア西部。現在では移植により、原産地以外のヨーロッパ諸国にも定着している。

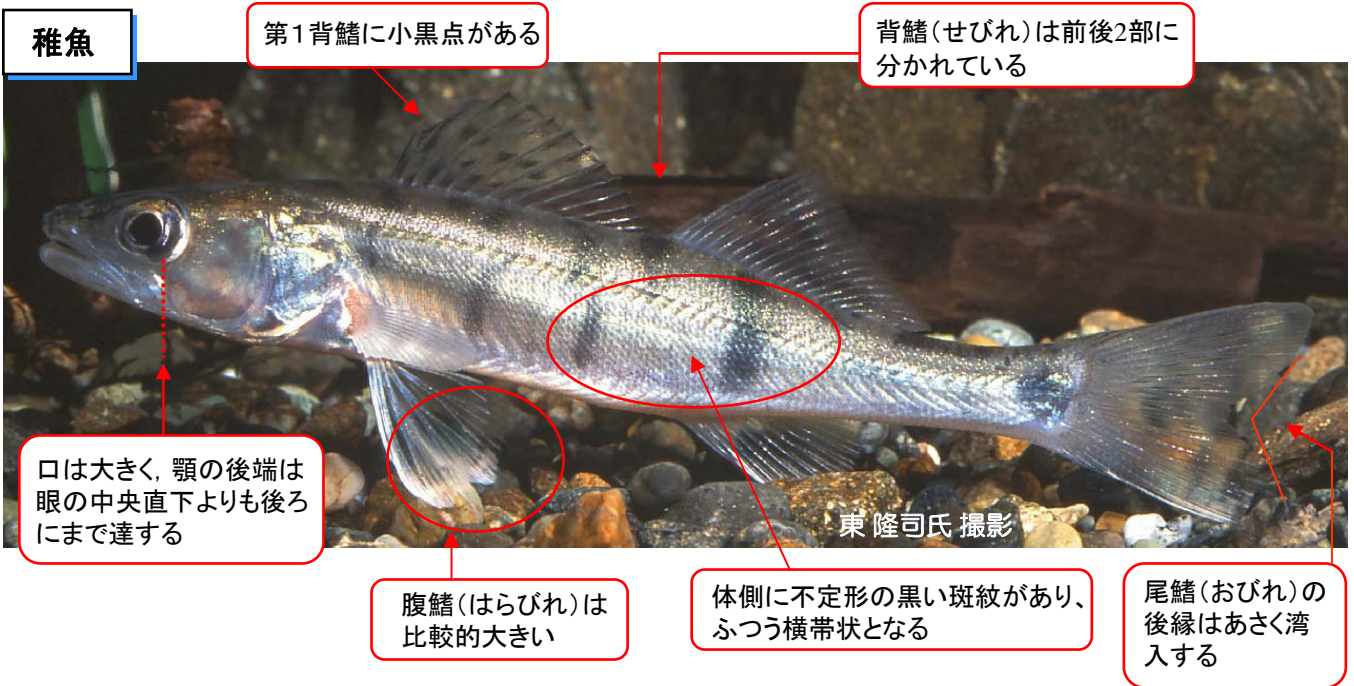
\*アメリカの研究者は *Stizostedion* の属名を採用している。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*、*Perca*(ヨーロッパアンパーチを除く)、*Sander*(パイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*、*Gadopsis*、*Maccullochella*、*Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*、*Hypopterus*)、セントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** パイクパーチと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高がひくい。口は比較的大きく、鋭い歯を備えている。顎の後端は眼の中央直下を越える。下顎は上顎よりもやや前が出る。鰓蓋(えらぶた)に棘は無い。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)は、前後2部に分かれている。胸鰭はそれほど長くない。腹鰭(はらびれ)は比較的大きい。尾鰭の後縁はあさく湾入する。鱗は細かい。体は淡い灰褐色～銀白色である。体側には不定形の黒い斑紋があり、ふつう横帯状となる。第1背鰭には小黑点が並ぶ。最大で全長130cmに達するが、ふつうは30～70cmほどまで。



**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。ヨーロッパ諸国では釣り魚として人気がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシグリット科やアカメ科などには、ヨーロッパアンパーチと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。

# 特定外来生物同定マニュアル

## ケツギョ

分類: スズキ目スズキ亜目ケツギョ科

学名: *Siniperca chuatsi* (Basilewsky, 1855)

英名: Chinese perch

和名: ケツギョ

別名・流通名: 魚厥、胖魚厥、桂花魚、桂魚、母猪壳、季花魚、ケイギョ

原産地と分布: 原産地はアジア東部(中国各地、アムール川)だが、現在では移植により台湾などで分布が確認されている。

**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*(ヨーロッパパーチを除く)、*Sander*(バイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrachus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** ケツギョと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワスズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高が高く、側扁し、背部は隆起する。口が大きく。顎の後端は眼の後縁に達し(幼魚をのぞく)、下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。前鰓蓋骨後縁は鋸状で、4~5個の大きい棘がある。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし。頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり。前部は硬い棘からなる。尾鰭の後縁は丸い。鱗は細かい。体は黄緑色、腹部は灰白色。体側には不規則な形をした暗褐色の斑点がある。吻から眼を経て、背鰭前背方にかけて、1条の細長い帯紋がある。背鰭の第6~7棘の下に1条の幅広い垂直帯紋がある。各鰭上に暗褐色の斑点が帯状に並ぶ。最大で全長65cmに達する。

### 成魚

吻から眼を経て、背鰭前背方にかけて、1条の細長い暗色帯紋がある

背鰭(せびれ)の中央付近に深い欠刻があり、前後2部に分かれているように見える。前部は鋭い棘からなる。



小林 圭介氏 撮影

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

体側には不規則な形をした暗褐色の斑紋がある

尾鰭(おびれ)の後縁は丸い

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシクリット科やアカメ科などには、ケツギョと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。本種は「桂魚」と呼ばれ、中華料理の食材としても用いられるが、飼養はもちろんのこと、活魚での運搬や保管も禁じられている。

# コウライケツギョ

分類: スズキ目スズキ亜目ケツギョ科

学名: *Siniperca scherzeri* Steindachner, 1892  
英名: なし  
和名: コウライケツギョ  
別名・流通名: 斑口、高麗桂魚、ソガリ  
原産地と分布: 原産地はアジア東部(中国、朝鮮半島、ベトナム)

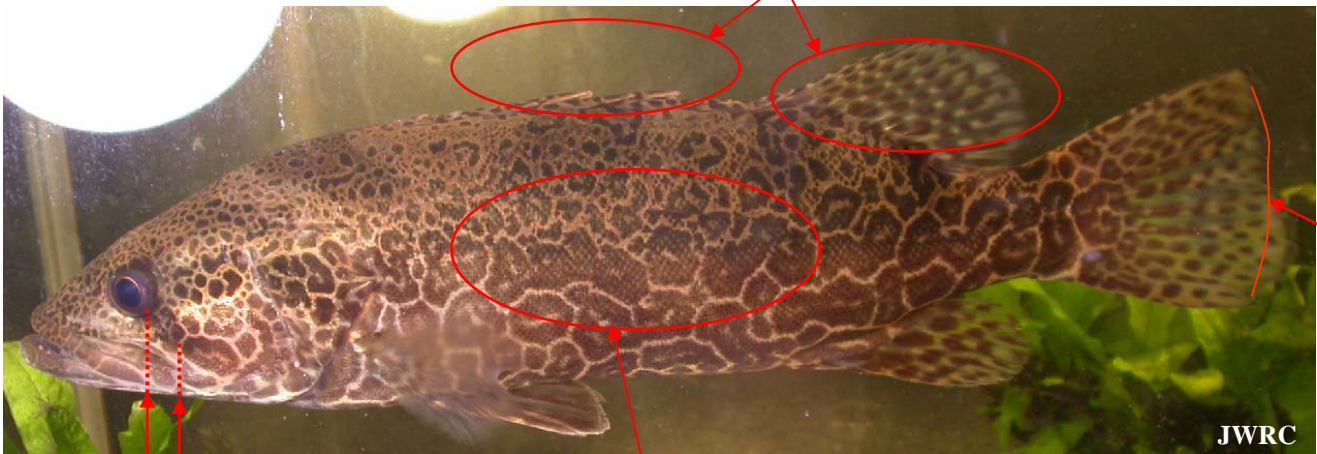
**未判定外来生物:** サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)、パーチ科の4属 [*Gymnocephalus*, *Perca*(ヨーロッパアンパーチを除く)、*Sander*(パイクパーチを除く)、*Zingel*]、ペルキクティス科の4属 (*Percichthys*, *Gadopsis*, *Maccullochella*, *Macquaria*)、モロネ科の2属 [*Morone*(ストライプトバス・ホワイトバスを除く)、*Dicentrarchus*]、ケツギョ科の1属 [*Siniperca*(ケツギョ・コウライケツギョを除く)]

**種類名証明書添付生物:** アカメ科の2属 (*Lates*, *Hypopterus*)、ケントロポムス科の1属 (*Centropomus*)

**規制対象外の類似生物:** コウライケツギョと同じ淡水魚に限れば、国内で観賞魚として古くから流通しているカワスズメ科魚類(“シクリッド”と総称されることが多い)と体形などが類似している。

**形態的特徴:** 体高がやや高く、側扁する。口が大きく、顎の後端は眼の後縁に達し、下顎は上顎よりも前につきだす。鼻孔は2対。前鰓蓋骨後縁は鋸状で、4~5個の棘がある。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)の中央付近にふかい“へこみ”があり、前部は硬い棘からなる。尾鰭の後縁は丸い。鱗は細かく、側線鱗数は104~124。頭部や体側には、縁取りのある不規則な豹柄の暗色斑紋がある。各鰭条に暗褐色の斑点が並ぶ。最大で全長30cmほど。

## 成魚



背鰭(せびれ)の中央付近に深い欠刻があり、前後2部に分かれているように見える。前部は鋭い棘からなる。

口が大きく、顎の後端は眼よりも後ろにまで達する(幼魚をのぞく)

体側には縁取りのある不規則な豹柄の小黑斑がある

尾鰭(おびれ)の後縁は丸い

**特記事項:** 外来生物法に基づき、学術研究を除く飼養等は原則的に禁じられている。原産地では釣り魚として人気がある。日本国内ではこれまで観賞用として一部で流通していたが、今後は無許可での飼養は法令違反の対象となる。なお、観賞魚として多数流通しているシクリッド科やアカメ科などには、コウライケツギョと形態が類似しているものもみられるが、体色や鰭の形状などに注目すれば、比較的容易に識別することができる。本種は「ソガリ」と呼ばれ、韓国料理の食材としても用いられるが、飼養はもちろんのこと、活魚での運搬や保管も禁じられている。